

令和2年度(令和3年度実施) 施策評価表

1 施策No.	6-1-1		
2 地域づくりの方向	人間優先の基盤が整備された安全・安心のまち		
3 政策	文化と魅力を備えたまちづくり		
4 施策	地域の特性を生かした市街地の形成		
5 評価担当部	都市整備部		
6 施策関連課	都市計画課		
7 評価者	都市整備部長 近藤 正仁		

8 施策の目標	地域の特性を踏まえた魅力ある都市づくりを推進します。						
	安全・安心で快適に暮らせる都市を実現します。						
	四季の彩りに包まれた環境に優しい都市空間を形成します。						
	文化の彩りと回遊性の広がりが生み出すにぎわいと活力を創出します。						
9 施策の現状と課題	<p>○平成27年3月に「豊島区都市づくりビジョン」を策定し、基本理念に掲げた「次世代が誇れる文化と魅力を備えた都市の創造」の実現に向け、計画的な都市づくりを推進している。</p> <p>○また、平成27年12月に景観行政団体へ移行し、平成28年3月には「豊島区景観計画」を策定して、魅力ある景観づくりに取り組んでいる。</p> <p>○池袋副都心の再生や木造住宅密集地域の改善などの都市整備プロジェクトが本格的に動き始め、都市の姿が大きく変わろうとしている。</p> <p>○こうした都市づくりにあわせて、地域の特性を最大限に惹き立て、都市の価値を高める市街地の形成や景観の創出が必要である。</p>						
10 施策の実現に影響を及ぼす環境の変化(法改正、社会状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都都市づくりのグランドデザインの策定(平成29年9月) ・東京都景観計画の改定(平成30年8月) ・東京における土地利用に関する基本方針(平成31年2月) ・都市計画区域マスタープランの改定(令和3年3月) 						
11 今年度の施策の取組方針	地域特性を踏まえ、人にやさしい快適な環境を次世代に引き継げるまちづくり計画を定め、個別事業や建築計画等を誘導していく。						
12 投入コストの推移	費目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	事業費合計(千円)	60,459	36,980	37,561	54,271	59,130	
	うち一般財源分(千円)	60,459	36,980	37,561	54,271	59,130	
13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(1)	基本計画指標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について、肯定的な回答をする区民の割合	目標値	18.0%	19.0%	20.0%	21.0%	22.0%
		実績値	22.1%	24.8%	27.2%	30.3%	34.7%
		達成率	122.8%	130.5%	136.0%	144.3%	157.7%
		達成状況	A:達成	S:目標超過達成	S:目標超過達成	S:目標超過達成	S:目標超過達成
指標重要度の割合(%)	100	指標設定理由 都市づくりビジョンに基づき推進するまちづくりの成果を示す指標であるため					
14 施策達成状況	令和2年度達成状況	157.7%	【達成状況分析】				
	S:目標超過達成	指標は目標値を大きく上回っており、地区計画や景観計画により、地域の特性に合わせた良好な市街地となるよう計画的に誘導してきた結果であると考え。					
		【指標重要度の割合の設定理由】					
15 施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	地区計画や景観計画は法に基づく地域ルールである。地域住民の参加により各地域の特性を踏まえてこれらの計画を策定し、建築物の建替え時に地域ルールに適合させていく。こうした一連の効果が徐々に表れてきている。住民の自主的なまちづくりに対しては、まず区職員による支援を行い、活動の熟度に応じて予算化を図るなどにより効果的な支援を展開する。						
16 施策貢献度の考え方(設定の根拠・理由)	市街地更新の重要な要素となる建築物等の形態面で計画誘導する「Hareza池袋・南池袋公園周辺エリア地区計画変更事業」を★ ★★、池袋西地区のまちづくりを推進する目的で協議会を立ち上げた「池袋西地区エリアマネジメント推進事業」及び色彩や意匠など景観面で誘導する「景観計画推進事業」を★★★、上位計画と整合性を図るため一部改正する「豊島区都市づくりビジョン改定事業」を★とする						
17 来年度の方針(課題解決策や改善策、成果向上策について)	東京都は都市計画区域マスタープラン等の上位計画を令和3年3月に改定した。これを受け、区は令和3年度に豊島区都市づくりビジョンの部分改定を予定しており、この進捗に応じて景観計画の改定検討を進める必要がある。今後も、計画的な都市づくりを推進し、都市の価値を高める市街地の形成や景観を創出することにより、区民の住環境への満足度向上を図っていく。特に、基盤整備などのハード面の取組と、文化や観光等のソフト面の取組のさらなる連携強化を通じて、地域資源を活用した、区民が住み続けたいと思うまちづくりを進める。						

令和2年度(令和3年度実施) 施策評価表

18 新規・拡充事業の効果や必要性	東京都は都市計画区域マスタープラン等の上位計画を令和3年3月に改定した。これを受け、区は令和3年度に豊島区都市づくりビジョンの部分改定を予定しており、この進捗に応じて景観計画の改定検討を進める必要がある。
-------------------	--

19 施策を構成する計画事業							
事業整理番号	事業名	項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1001-01	豊島区景観計画推進事業	事業費合計(千円)	35,986	36,980	37,561	29,885	23,671
		うち一般財源分(千円)	35,986	36,980	37,561	29,885	23,671
		現状評価	A:良好	A:良好			
	事業特性1 任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★	★★	★★
	事業特性2 区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持
1001-02	豊島区都市づくりビジョン改定事業	事業費合計(千円)				15,234	11,580
		うち一般財源分(千円)				15,234	11,580
		現状評価					
		事業特性1 任意的事業	施策貢献度				★
事業特性2 区単独	今後の事業の方向性				A:現状維持	D:終了	
1001-03	池袋西地区エリアマネジメント推進事業	事業費合計(千円)				9,152	10,067
		うち一般財源分(千円)				9,152	10,067
		現状評価					
		事業特性1 任意的事業	施策貢献度				★★
事業特性2 区単独	今後の事業の方向性				A:現状維持	B:改善・見直し	
1001-04	Hareza池袋・南池袋公園周辺エリア地区計画変更事業	事業費合計(千円)					13,812
		うち一般財源分(千円)					13,812
		現状評価					
		事業特性1 任意的事業	施策貢献度				
事業特性2 区単独	今後の事業の方向性					A:現状維持	

令和2年度(令和3年度実施) 施策評価表

1 施策No.	6-1-2		
2 地域づくりの方向	人間優先の基盤が整備された安全・安心のまち		
3 政策	文化と魅力を備えたまちづくり		
4 施策	池袋副都心の再生【重点】		
5 評価担当部	都市整備部		
6 施策関連課	都市計画課		
7 評価者	都市整備部長 近藤 正仁		

8 施策の目標	国際拠点池袋の魅力を高めるために、文化芸術機能を強化するとともに都市機能を集積させ、国際アート・カルチャー都市を形成し、東京の国際競争力を強化します。 都市基盤や街区の再編と併せ、駅前広場や東西デッキ等の整備により、回遊性・利便性の高い歩行者中心のまちに都市構造を転換していきます。 都市再生事業と連動したエリア防災対策と地域エネルギーの高効率化を進め、災害時の対応力と都市の環境性能を強化していきます。						
9 施策の現状と課題	○池袋駅周辺からサンシャインシティに至る経路など一部地域について、商業施設の集積に偏りが見られる。また、鉄道施設によりまちの東西が分断されている。 ○池袋駅は、国内屈指の乗降客数を数えるが、約7割が乗換え利用であり、駅の賑わいがまちへ広がっていない。 ○このため、商業機能に偏らない多様な都市機能の高度な集積、歩行者の回遊拡大、風格のある都市景観の創出など、まち全体の魅力を高めていく必要がある。 ○また、大規模災害の発災時に発生が懸念される、大量の滞留者や帰宅困難者への対応は急務となっている。 ○さらた、池袋駅の東西で稼働している地域冷暖房施設や豊島清掃工場の排熱の利用など、既存のストックを活用したエネルギー利用の効率化と災害時の対応力を高めていく必要がある。						
10 施策の実現に影響を及ぼす環境の変化(法改正、社会状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・特定都市再生緊急整備地域指定(平成27年7月) ・国家戦略特区指定(平成27年8月) ・アジアヘッドクォーター特区指定(平成28年11月) ・都市づくりのグランドデザイン(平成29年9月) ・池袋駅コア・ゾーンガイドライン2020(令和2年2月) 						
11 今年度の施策の取組方針	池袋副都心における商業・業務機能の秩序ある発展と各地域の個性を活かしたまちづくりの展開により、都市全体の魅力と活力の向上を目指す。						
12 投入コストの推移	費目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	事業費合計(千円)		156,694	103,557	612,598	744,491	57,405
	うち一般財源分(千円)		134,379	101,747	368,188	430,211	57,405
13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(1)	基本計画指標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	「池袋周辺で、新宿、渋谷などにはない魅力あるまちづくりが進んでいる」について、肯定的な回答をする区民の割合【%】	目標値	26.0%	27.0%	28.0%	29.0%	30.0%
		実績値	28.1%	30.0%	35.2%	39.9%	46.0%
		達成率	108.1%	111.1%	125.7%	137.6%	153.3%
		達成状況	A:達成	A:達成	A:達成	S:目標超過達成	S:目標超過達成
指標重要度の割合(%)	100	指標設定理由 池袋駅周辺におけるまちづくりの魅力度を測る、区民意識調査の指標として					
14 施策達成状況	令和2年度達成状況	153.3%	【達成状況分析】				
	S:目標超過達成	指標としている「魅力あるまちづくり」への肯定的な回答が前年度から大きく伸びている(39.9%⇒46.0%)。池袋駅周辺地域では、昭和53年のサンシャインシティ開業以降、大規模な都市再生が進んでいなかったが、区庁舎の移転整備を契機として、公民の多様な事業による都市再生の機運が大きく高まっている。特定都市再生緊急整備地域の指定、国家戦略道路占用事業の認定、アジアヘッドクォーター特区の指定などを活用して、公民連携のもと連鎖的に魅力あるまちづくりを進めてきたことにより、区民の要望や期待に応えてきた結果が示されている。					
	【指標重要度の割合の設定理由】						
15 施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	施策を構成する事務事業は、全て多様な関係事業者等との協議により進めていくべきものであり、関係者によって事業規模なスケジュール、関わり方に差異がある。そのため、状況に応じた段階的な協議、個別関係者とのきめ細やかな調整が必要であり、施策の実現には相応の時間を要するものとする。						
16 施策貢献度の考え方(設定の根拠・理由)	池袋駅周辺地域の都市再生を推進していくため、国、東京都、民間事業者等、多くの関係者との協議を要する、池袋駅周辺地域全体のまちづくりの計画や方針の策定については★★★★とし、個々の事業については★★とした。ただ、個々の事業であっても、事業規模が大きく、スケジュールも直近に迫っているものについては、都市再生への影響が大きいため★★★★とし、事業が動き出す前の検討段階のものについては★としている。						

令和2年度(令和3年度実施) 施策評価表

17 来年度の方針 (課題解決策や改善策、 成果向上策について)	池袋駅周辺地域を「世界中から人を惹きつける国際アート・カルチャー都市のメインステージ」としていくために、シンボリックな都市の顔や個性ある拠点を形成するとともに、高質な空間をネットワークし、地域全体の魅力を高めていく。 そのため、魅力ある都市像とともに都市基盤の整備方針を明示、関係する事業者や地権者等との協議を重ねながら、都市再生事業の機運をさらに高め、公民事業の連携により、新たなニーズに対応する都市基盤の再編と老朽化が進む市街地の機能更新を同時に進めていく。
18 新規・拡充事業の 効果や必要性	上記の方針を実現していくため、大規模建築物や公共都市基盤の整備を対象として、質の高い都市空間デザインを適切に誘導していくための指標となる、空間整備イメージを作成し、全ての関係者間で共有する必要がある。また、長期に渡る都市再生事業を効率的、効果的に進展させるため、都市再生事業全体を把握し、コントロールしていく機関の設置が急がれる。

19 施策を構成する計画事業								
事業整理番号	事業名	項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
1001-05	池袋副都心再生推進事業	事業費合計(千円)	56,362	54,654	25,819	27,460	21,443	
		うち一般財源分(千円)	56,362	54,654	25,819	27,460	21,443	
		現状評価	B:普通	B:普通				
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度	★★★	★★★	★★★	★★★	★★★
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	S:拡充	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持
1001-06	池袋駅東西連絡デッキ整備事業	事業費合計(千円)	100,332	22,835	578,898	712,080	22,716	
		うち一般財源分(千円)	78,017	21,025	334,488	397,800	22,716	
		現状評価	A:良好	B:普通				
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度	★★	★★	★★	★★	★★
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	S:拡充	A:現状維持	A:現状維持	A:改善・継続
1001-07	池袋駅周辺地域拠点まちづくり推進事業	事業費合計(千円)		8,673	2,935	12	2	
		うち一般財源分(千円)		8,673	2,935	12	2	
		現状評価		A:良好				
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度		★	★	★	★
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性		A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持
1001-08	池袋駅周辺地域街区再編まちづくり推進事業	事業費合計(千円)		17,395	4,946	4,939	13,244	
		うち一般財源分(千円)		17,395	4,946	4,939	13,244	
		現状評価		A:良好				
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度		★★	★★	★★	★★
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性		A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	A:改善・継続

令和2年度(令和3年度実施) 施策評価表

1 施策No.	6-1-3		
2 地域づくりの方向	人間優先の基盤が整備された安全・安心のまち		
3 政策	文化と魅力を備えたまちづくり		
4 施策	活力ある地域拠点の再生		
5 評価担当部	都市整備部		
6 施策関連課	都市計画課		
7 評価者	都市整備部長 近藤 正仁		

8 施策の目標	池袋以外の駅周辺は、人々が活発に交流し、にぎわうまちとして、都市の機能を更新・集積するなど、個性を生かした活力と魅力ある地域の拠点として再生します。 駅周辺では、利便性や賑わいの向上を図り、地域の歴史や文化特性を生かしたまちづくりをすすめるため、駅前広場や駐輪場を整備し、安全で快適な歩行者空間を創出します。						
9 施策の現状と課題	○駅ホームにおける安全性向上のための検討会中間とりまとめフォローアップ(平成29年7月)・・・1日10万人以上が利用する駅については原則2020年度までに転落防止のホームドアを設置した。 ○池袋駅以外の各鉄道駅周辺は、地域に親まれる一定規模の商業・業務地が形成されている。それらの駅周辺では、これまで順次、関係機関と協力して、駅舎の改造、駅前広場や周辺道路の再整備をしている。これからも、各駅周辺では、快適な歩行者空間の充実や地域特性を生かしたまちづくりを行っていく必要がある。 ○高齢者や障害のある方などが社会や地域の活動に参加しながら、安全で快適に自立した日常生活や社会生活を営むことができる環境づくりが求められている。そのためには、誰もが安全で快適に利用することができる、公共空間の整備を進める必要がある。						
10 施策の実現に影響を及ぼす環境の変化(法改正、社会状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市づくりのグランドデザイン(平成29年9月) ・東京都市開発諸制度活用方針(令和2年12月改定) ・特定都市再生緊急整備地域指定(平成27年7月) ・国家戦略特区指定(平成27年8月) ・池袋駅コア・ゾーンガイドライン2020(令和2年2月) 						
11 今年度の施策の取組方針	各駅及び駅周辺において、地域の個性を生かした整備や維持管理を図るとともに、安全で快適な歩行者空間を確保する。						
12 投入コストの推移	費 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	事業費合計(千円)	144,984	141,688	453,631	73,646	1,087,193	
	うち一般財源分(千円)	144,984	141,688	293,631	73,646	456,793	
13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(1)	基本計画指標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	「駅および駅周辺が整備され、利用しやすくにぎわっている」と思う区民の割合	目標値	43.1%	44.1%	45.1%	46.1%	47.1%
		実績値	44.7%	49.6%	49.1%	49.5%	52.4%
		達成率	103.7%	112.5%	108.9%	107.4%	111.3%
		達成状況	A: 達成	A: 達成	A: 達成	A: 達成	A: 達成
指標重要度の割合(%)	100	指標設定理由 区が進めるまちづくりが、区民の要望や期待に応じることができているのかを示す指標であるため					
14 施策達成状況	令和2年度達成状況	111.3%	【達成状況分析】				
	A: 達成	地域の拠点となる大塚駅や東長崎、椎名町駅でのバリアフリー化と駅前空間整備を順次進めてきたことが指標を達成する要因となっていると考える。					
		【指標重要度の割合の設定理由】					
15 施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	鉄道駅周辺は地域の生活及び活動の拠点となる。大塚駅周辺では、駅舎改良と南北自由通路、南口駅前広場の整備が完了し、現在、北口駅前空間の整備が進んでいる。その過程では地域住民や関係事業者との協議を重ねており、こうした連携が事業実施はもとより、ハード整備完了後における民間主導のマネジメントへとつながる。また、鉄道駅の安全性を高め、駅周辺地域のバリアフリー化について、関係者等と課題を共有していくことが、地域の活力を支える安全・安心の実現につながる。						
16 施策貢献度の考え方(設定の根拠・理由)	活力ある地域拠点の再生には、地域住民や事業者等の主体的な取り組みにより地域特性を踏まえた個性ある魅力と安全を兼ね備えたまちづくりを進めていくことが重要である。魅力と活力ある市街地改善がスタートする「南池袋二丁目C地区市街地再開発事業」も★★★とした。						

令和2年度(令和3年度実施) 施策評価表

17 来年度の方針 (課題解決策や改善策、 成果向上策について)	東京都の都市開発諸制度活用方針が平成31年3月に改定され、巣鴨、駒込、大塚の各駅周辺が「活力とにぎわいの拠点地区」に位置付けられた。こうした拠点地区の位置づけを踏まえ、地域住民、関係機関、関係事業者との協議を引き続き重ねながら、施設整備を進めるとともに、地域が主体的に取り組む活力ある拠点の形成を目指す。
18 新規・拡充事業の 効果や必要性	バリアフリー基本構想は、池袋駅地区以外の地区についても、その可否を含め検討する必要がある。さらに地域ニーズを踏まえた巣鴨駅や駒込駅周辺の整備について検討していく。

19 施策を構成する計画事業							
事業整理番号	事業名	項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1001-09	南池袋二丁目C地区市街地再開発事業	事業費合計(千円)			332,101	12,116	674,607
		うち一般財源分(千円)			172,101	12,116	246,207
		現状評価					
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度		★★★	★★★	★★★
	事業特性2	国・都補助 + 区上乗せ	今後の事業の方向性			S:拡充	S:拡充
1001-10	東池袋一丁目地区市街地再開発事業	事業費合計(千円)					412,586
		うち一般財源分(千円)					210,586
		現状評価					
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度				★★★
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性				A:現状維持
1001-10	鉄道駅等バリアフリー推進事業	事業費合計(千円)	144,984	141,688	121,530	61,530	
		うち一般財源分(千円)	144,984	141,688	121,530	61,530	
		現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度	★★	★★	★	★
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	D:終了

令和2年度(令和3年度実施) 施策評価表

1 施策No.	6-1-4		
2 地域づくりの方向	人間優先の基盤が整備された安全・安心のまち		
3 政策	文化と魅力を備えたまちづくり		
4 施策	新・旧庁舎を活用した文化にぎわいの創出		
5 評価担当部	都市整備部		
6 施策関連課	都市計画課	道路整備課	文化デザイン課
7 評価者	都市整備部長 近藤 正仁		

8 施策の目標	<p>新庁舎周辺は、新たな文化拠点として、魅力あるアプローチ動線の再生や他のにぎわい拠点との連携により、快適な都市空間を形成し、人々の回遊性を高めます。</p> <p>旧庁舎と公会堂、区民センターの敷地は、中池袋公園と南北区道を含め、新たなにぎわい拠点として再生し、文化を核とした広範なまちづくりのネットワーク形成を推進します。</p>						
9 施策の現状と課題	<p>○池袋駅の東口は、サンシャインシティ方面の一点に歩行者の流れが集中し、面的なにぎわい空間の広がり課題がある。区は、新庁舎整備を契機として、庁舎跡地は民間活用により新ホールをはじめとする8つの劇場を整備する「Hareza池袋」が完成し、新たなにぎわい拠点が完成した。近年、庁舎跡地周辺では民間による開発事業が活発化しており、庁舎跡地周辺のまちづくりを展開することで、魅力と回遊性を面的に広げていく必要がある。</p> <p>○新庁舎周辺のグリーン大通りではオープンカフェやマルシェを実施し、道路空間の新たな活用方法を検討した。これらをもふまえ、国家戦略特区との関連を整理しながら、エリアマネジメントに基づく住民主体のまちづくりが確立できるよう調整を進めていく必要がある。</p>						
10 施策の実現に影響を及ぼす環境の変化(法改正、社会状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇話会提言(令和元年6月国交省) ・ウォーカブル推進都市の募集(令和元年7月国交省) ・まちなかウォーカブル推進事業の創設(都市再生整備計画事業の拡充)(令和2年4月国交省) 						
11 今年度の施策の取組方針	新たなにぎわい拠点の創出に向けて、期待感を醸成する。						
12 投入コストの推移	費目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	事業費合計(千円)	24,556	71,096	34,432	24,041	10,392	
	うち一般財源分(千円)	24,556	71,096	34,432	24,041	6,392	
13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(1)	基本計画指標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	「新庁舎をはじめとして、池袋駅を中心とした広範なまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合	目標値	39.4%	40.4%	41.4%	42.4%	43.4%
		実績値	47.1%	50.5%	55.1%	55.7%	62.4%
		達成率	119.5%	125.0%	133.1%	131.4%	143.8%
		達成状況	A:達成	A:達成	S:目標超過達成	S:目標超過達成	S:目標超過達成
指標重要度の割合(%)	100	指標設定理由 区が進めるまちづくりが、区民の要望や期待に応じることができているのかを示す指標であるため					
14 施策達成状況	令和2年度達成状況	143.8%	【達成状況分析】				
	S:目標超過達成	Hareza池袋をはじめ複数のプロジェクトが完成し、整備が進んでいることが視覚的にも確認できるようになったことに加え、グリーン大通りでのマルシェやイベントを定期的に開催していること、リニューアルした南池袋公園など賑わい空間の演出が評価されたものと考えている。1年延期した2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、更にまちづくりの機運を高めていくことが必要である。					
		【指標重要度の割合の設定理由】					
15 施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	新庁舎整備と旧庁舎跡地の開発は区が先導しながらも民間のノウハウを活用して池袋副都心の新たな拠点を形成するものである。この拠点を核として道路や公園などの都市基盤を整備することで、サンシャインシティ方面に偏っていた歩行者の流れを広げ、民の力を活用しながら池袋副都心全域での魅力と回遊性を高めていくことが必要である。現在はその過程にあるが、公民連携のもとで民間主導のエリアマネジメントへと発展する素地を築きつつあると考える。						
16 施策貢献度の考え方(設定の根拠・理由)	グリーン大通りは池袋の都市軸として賑わいを演出していくことが必要であるため★★、庁舎跡地活用は令和元年度で事業終了のため★としている。						
17 来年度の方針(課題解決策や改善策、成果向上策について)	国土交通省では、新たな時代のまちづくりの方向性として「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出により、イノベーションと人中心の豊かな生活を実現する方策を検討している。この事例として、グリーン大通りや南池袋公園が紹介されるなど、本区の取組みが注目されている。マルシェやオープンカフェなどによる道路空間の活用について、単にイベントに終わらず、沿道建物低層階の都市機能と一体となり、持続的な活動へと発展させていく。						

令和2年度(令和3年度実施) 施策評価表

18 新規・拡充事業の 効果や必要性	<p>グリーン大通り沿道建物は、未だ銀行などの業務機能が多くを占める。こうした沿道建物の用途をにぎわいを演出する機能へと転換を促していくため、沿道建物建て替えの意向調査を行い、インセンティブを含んだ都市計画手法を検討していく必要がある。また、道路空間のさらなる活用方策について、新たな仕組みの検討も必要である。</p>
-----------------------	---

19 施策を構成する計画事業								
事業整理番号	事業名	項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
1001-11	グリーン大通りエリアマネジメント推進事業	事業費合計(千円)	24,556	18,306	11,899	7,624	10,392	
		うち一般財源分(千円)	24,556	18,306	11,899	7,624	6,392	
		現状評価	B: 普通					
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度	★★	★★	★★	★★	★★
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持
0502-26	庁舎跡地活用事業	事業費合計(千円)		52,790	22,533	16,417		
		うち一般財源分(千円)		52,790	22,533	16,417		
		現状評価						
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度			★★	★	
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性			A:現状維持	D:終了	